

新しいワインは新しい革袋に

個人の資本価値を高める新しい教育

# 日本の若者に未来はあるか？

- ◆ 「米デューク大教授のキャシー・デビッドソンによると、**今、小学校に入る子どもの65%は現在まだない職業に就くという。**」
- ◆ 「欧米諸国が苦労してやっと獲得した、科学の繁栄につながるリベラルで知的な環境を新興国でも実現できるなら、その国は科学の面ばかりか社会的、政治的な面でも繁栄するだろう。もし実現しないなら、あるいはできないなら、彼らの行く末には**日本と同じ運命が待ち受ける。つまり、ぬるま湯のような暮らしの中でぼんやり日を過ごし、真に新しいことには気持が向かなくなるのだ。**」

# 世界の時価総額ランキング

平成元年(1989年)12月末



金額単位：億ドル

順位	企業名	時価総額	国名
1	日本電信電話(NTT)	1,638.6	日本
2	日本興業銀行	715.9	日本
3	住友銀行	695.9	日本
4	富士銀行	670.8	日本
5	第一勧業銀行	660.9	日本
6	IBM	646.5	米国
7	三菱銀行	592.7	日本
8	エクソン	549.2	米国
9	東京電力	544.6	日本
10	ロイヤル・ダッチ・シェル	543.6	英・蘭
11	トヨタ自動車	541.7	日本
12	ゼネラル・エレクトリック	493.6	米国
13	三和銀行	492.9	日本
14	野村証券	444.4	日本
15	新日本製鉄	414.8	日本
16	AT&T	381.2	米国
17	日立製作所	358.2	日本
18	松下電器産業	357.0	日本
19	フィリップ・モリス	321.4	米国
20	東芝	309.1	日本
21	関西電力	308.9	日本
22	日本長期信用銀行	308.5	日本
23	東海銀行	305.4	日本
24	三井銀行	296.9	日本
25	メルク	275.2	米国

平成31年(2019年)4月末



金額単位：億ドル

順位	企業名	時価総額	国名
1	Microsoft	10,007.6	米国
2	Amazon.com	9,484.9	米国
3	Apple	9,462.2	米国
4	Alphabet	8,287.2	米国
5	Facebook	5,520.6	米国
6	Berkshire Hathaway	5,334.3	米国
7	Alibaba Group Holding	4,772.7	中国
8	Tencent Holdings	4,745.8	中国
9	JP Morgan Chase	3,799.8	米国
10	Johnson & Johnson	3,760.4	米国
11	Exxon Mobil	3,399.7	米国
12	Visa	3,282.1	米国
13	中国工商銀行	3,100.5	中国
14	Nestle	2,996.9	スイス
15	Walmart	2,951.2	米国
16	Bank of America	2,907.6	米国
17	中国建設銀行	2,776.0	中国
18	P&G	2,670.9	米国
19	Royal Dutch Shell	2,623.5	オランダ
20	サムスン電子	2,605.6	韓国
21	Mastercard	2,597.1	米国
22	中国平安保険	2,557.1	中国
23	Cisco Systems	2,462.9	米国
24	Verizon Communications	2,365.2	米国
25	Roche Holding	2,344.9	スイス

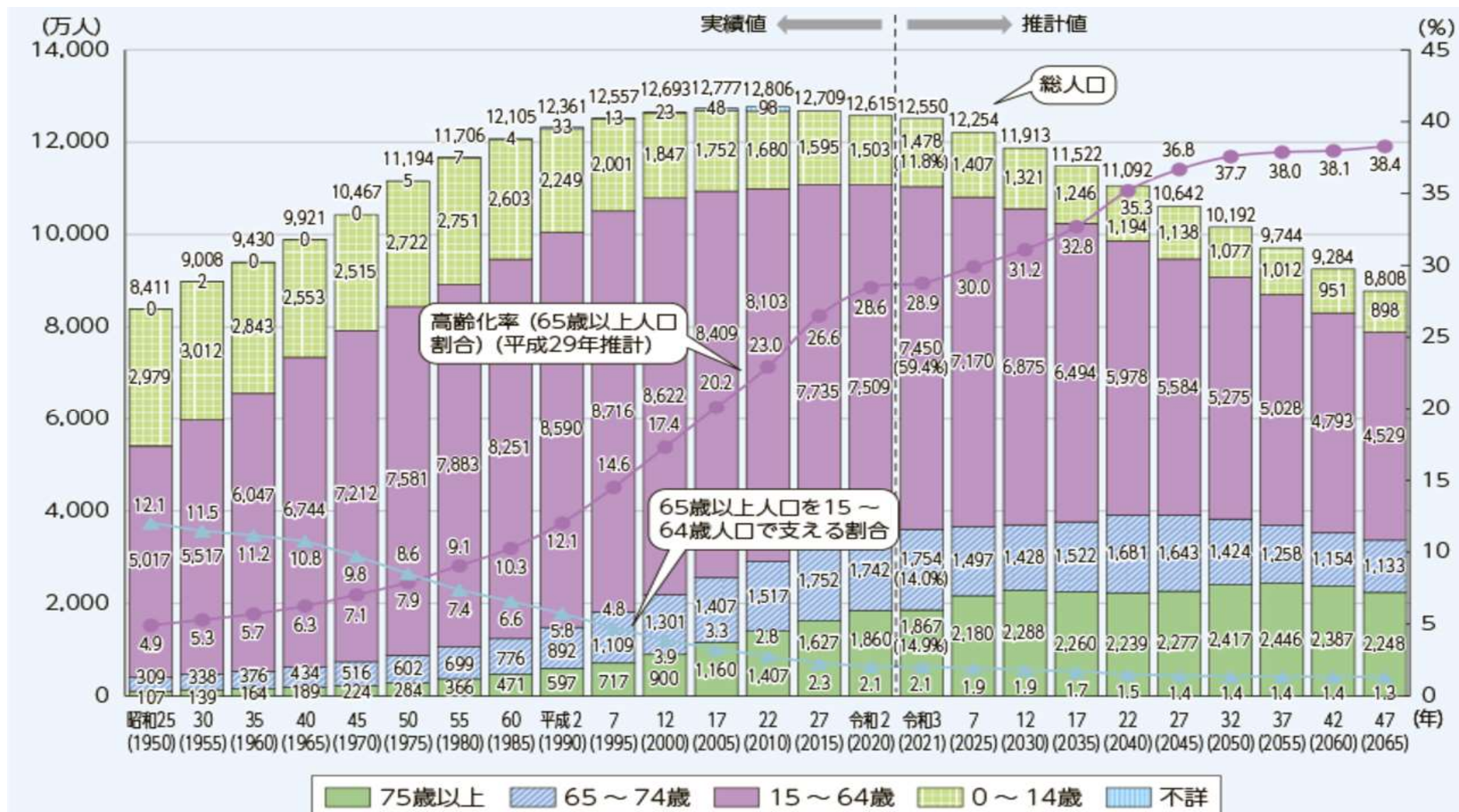
# 2024年世界の一人当たりGDPランキング

単位US\$

順位	国名	単位 (US\$)
1	ルクセンブルグ	131.38 (thousand) <b>106.19</b>
2	アイルランド	106.06(thousand)
3	スイス	105.67(thousand)
4	ノルウェー	94.66(thousand)
5	シンガポール	<b>88.45(thousand)</b> <b>46.59</b>
6	アメリカ	85.37(thousand) <b>48.31</b>
7	アイスランド	84.59(thousand)
8	カタール	81.4(thousand)
9	マカオ	78.96(thousand)
10	デンマーク	68.9(thousand) <b>58.18</b>
<hr/>		
38	日本	<b>33.14(thousand)</b> <b>44.7 (2010年)</b>

※出典：IMF (=International Monetary Fund、国際通貨基金)

# 日本の人口推移 (R3年ベース)

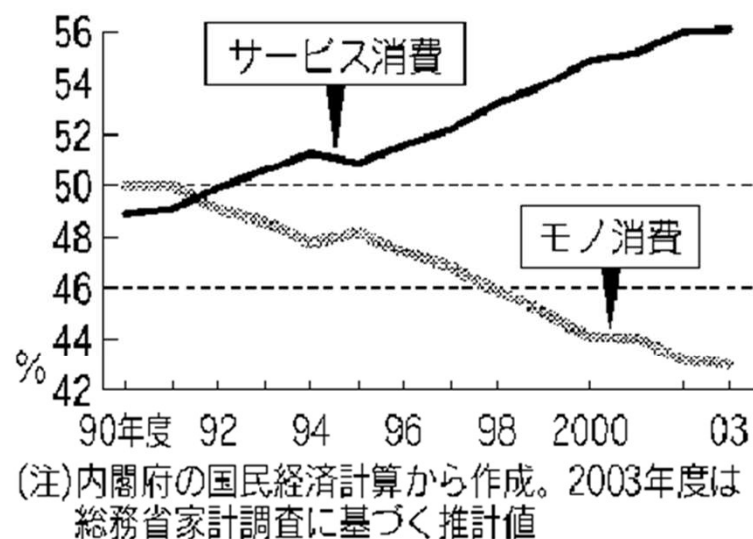
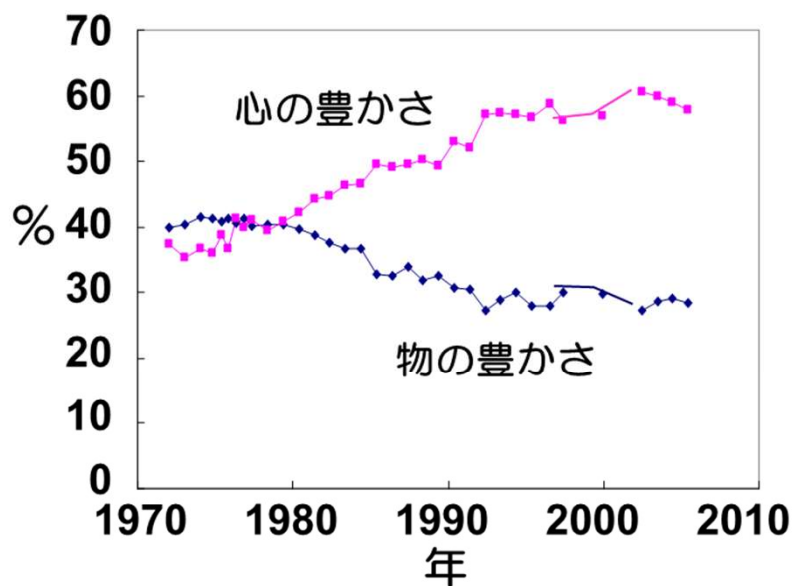


# Forbes 日本版2003年4月号「世界を変えた創意と革新85年の軌跡」

年号	創意と革新	提唱者(社)
1917	スニーカー	U・S・ラバー社
1923	近代的経営手法	アルフレッド・スローン
	マルチプレーン・カメラ	ウォルト・ディズニー
1924	冷凍食品	クラレンス・バースアイ
1926	ロケット・エンジン	ロバート・ゴダード
1929	合成ゴム	ジュリアス・ニーランド
1934	ナイロン	ウォレス・カロザス
1938	ゼロックス複写機	チェスター・カールソン
1939	オートマチック・トランスミッション	アール・トンプソン
	ヘリコプター	イゴール・シコルスキー
1942	コンピュータ	ジョン・アタナソフ
1945	原子力発電	
1947	携帯電話	D・H・リング
	タッパーウェア	アール・タッパー
	電子レンジ	パーシー・スペンサー
1950	クレジットカード	フランク・マクナ馬拉
1951	レビットタウン	ウィリアム・レビット
1952	コングロマリット	ロイヤル・リトル

年号	創意と革新	提唱者(社)
1955	ファースト・フード	レイ・クロック
1956	コンテナ輸送	マルコム・マクリーン
	ディスク・ドライブ	レイノルド・ジョンソン
1959	3点式シートベルト	ニルス・ボーリン
1962	モデム	ベル研
1965	消費者運動	ラルフ・ネーダー
1968	マウス	ダグラス・エンゲルバート
1969	電荷結合素子 (CCD)	ジョージ・スミス ウィラード・ボイル
1970	コンパクト・ディスク (CD)	ジェームス・ラッセル
1972	コンピュータ断層撮影装置 (CT)	ゴッドフリー・ハスフィールド アラン・コーマック
1976	パソコン時代の幕開け	スティーブ・ジョブズ スティーブ・ウォズニアク
1984	液晶ディスプレイ (LCD)	RCA研究所
1987	プロザック (抗うつ剤)	レイ・フラー
1991	WWW (ワールド・ワイド・ウェブ)	ティム・バーナーズ・リー
2000	DNA配列自動解読装置	セセラ・ジェノミックス社

# 「モノ」から「コト」へ



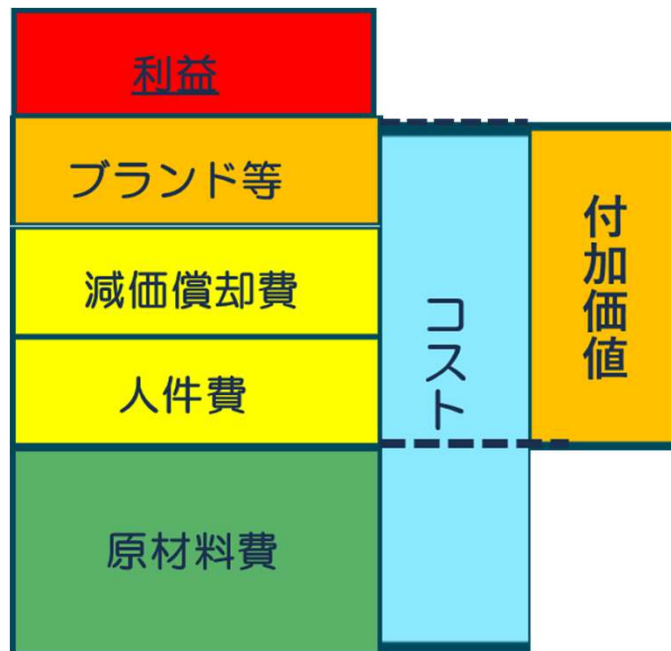
今後の生活において重きをおくものは？

(出典：内閣府 国民生活に関する世論調査)

モノ消費とサービス消費の推移

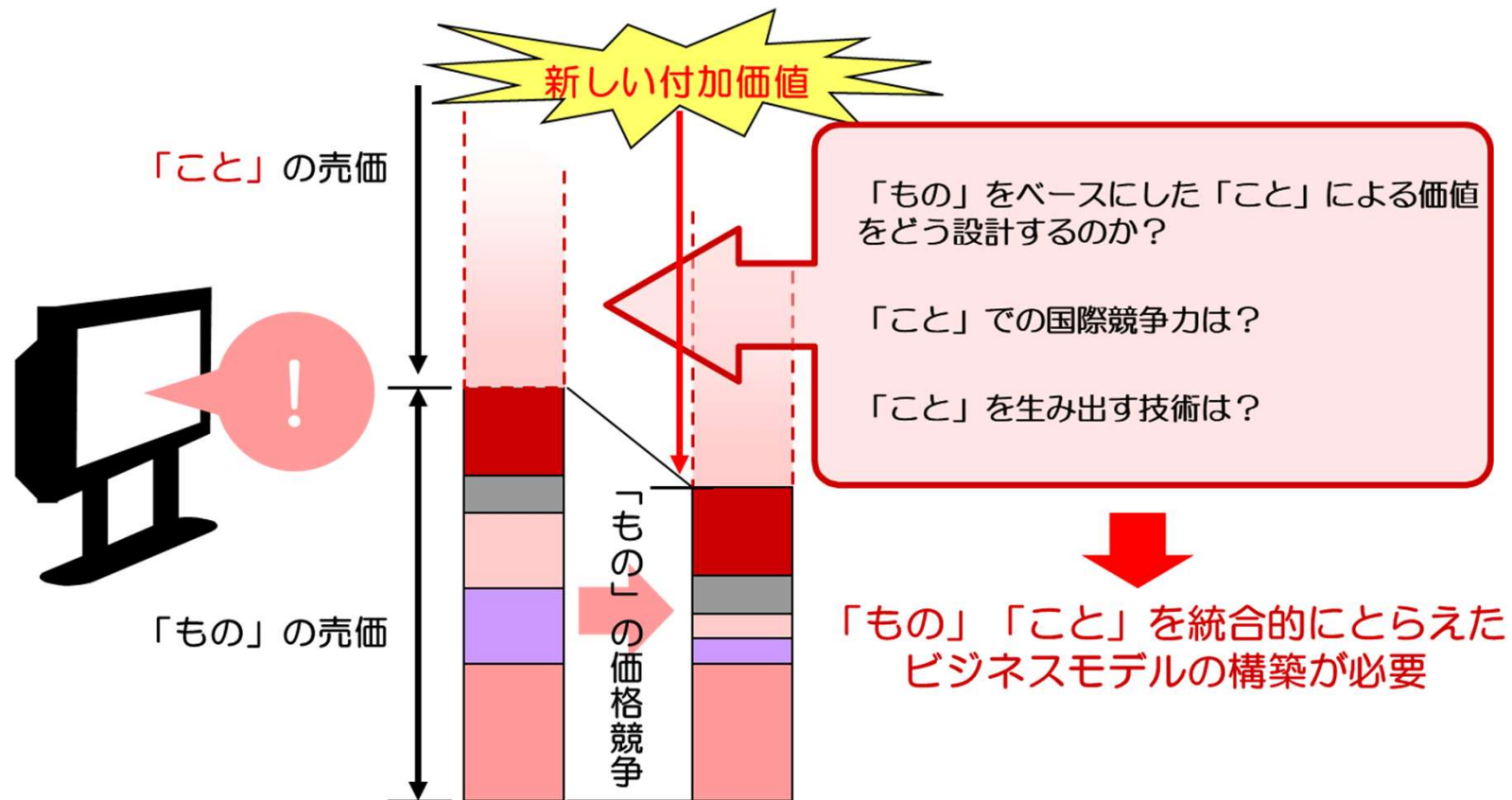
(出典：日本経済新聞2004年10月5日版)

## 製品の価値構造



- ◆ 人件費・減価償却費は固定費
  - 固定費削減による利益の増加
  - 低賃金・人海戦術⇒事業価値減少
- ◆ 人件費・減価償却費は付加価値
  - 高付加価値による事業の価値増大
  - 無形資産経済では付加価値の増大が鍵になる

# 何が価値を生み出しているのか？



# 義務教育修了段階の子供達のポテンシャルとその後

※Rank among OECD member countries

## Comparison with OECD countries (37 countries)

	Mathematical literacy	Mean score	Reading literacy	Mean score	Science literacy	Mean score
1	Japan	536	Ireland	516	Japan	547
2	Korea	527	Japan	516	Korea	528
3	Estonia	510	Korea	515	Estonia	526
4	Switzerland	508	Estonia	511	Canada	515
5	Canada	497	Canada	507	Finland	511
6	Netherlands	493	United States	504	Australia	507
7	Ireland	492	New Zealand	501	New Zealand	504
8	Belgium	489	Australia	498	Ireland	504
9	Denmark	489	England	494	Switzerland	503
10	England	489	Finland	490	Slovenia	500
	OECD average	472	OECD average	476	OECD average	485

indicates countries with no statistically significant difference in scores from Japan

PISA2022

- 高校まで：優秀＝偏差値が高い
- 大学では：優秀＝成績優秀
- 社会では：優秀＝Competencyが高い

偏差値～大学での成績～Competency?

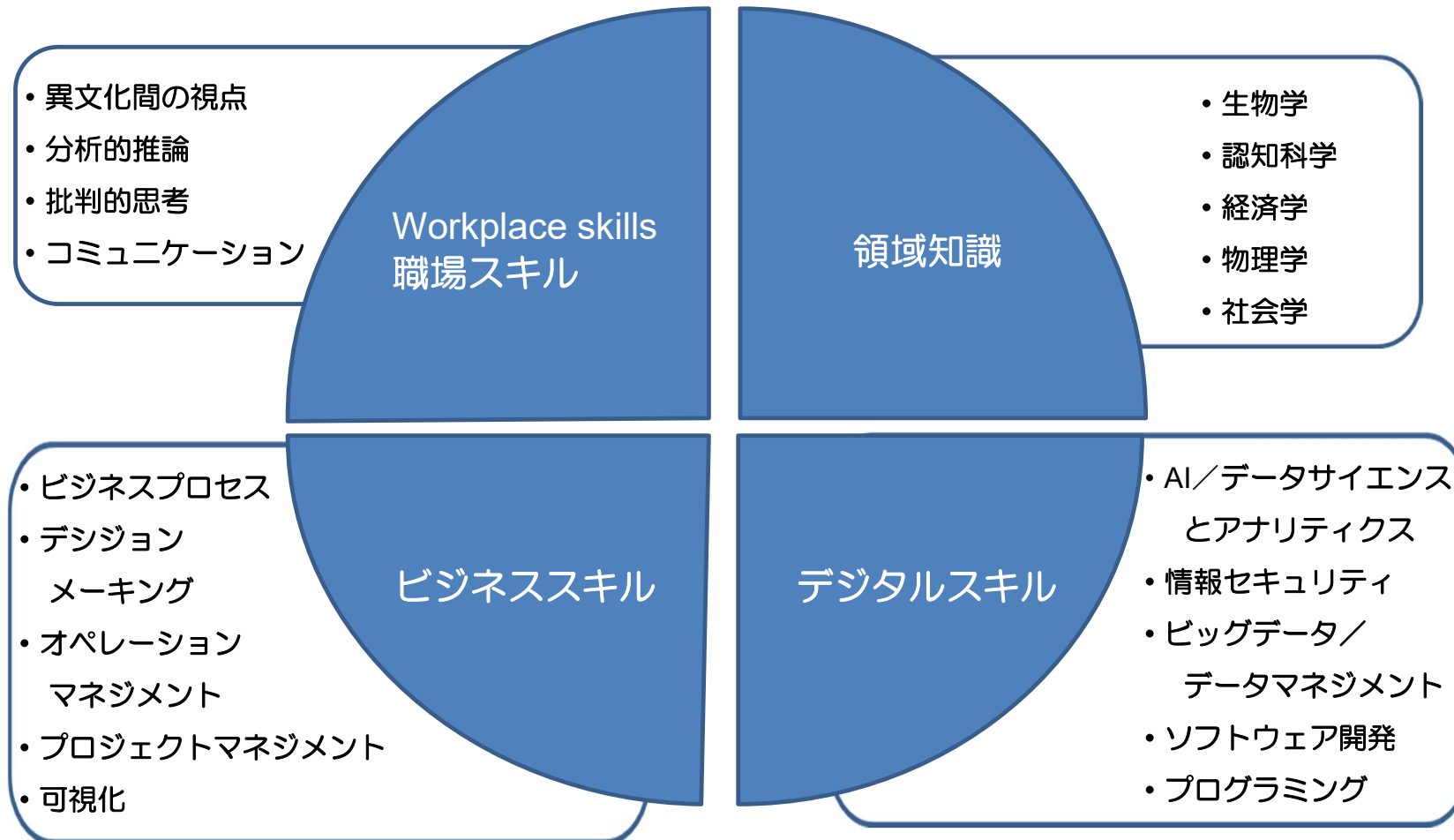


あまり相関がない



**Competencyが重要！！**

# デジタル人材に何が求められているのか？

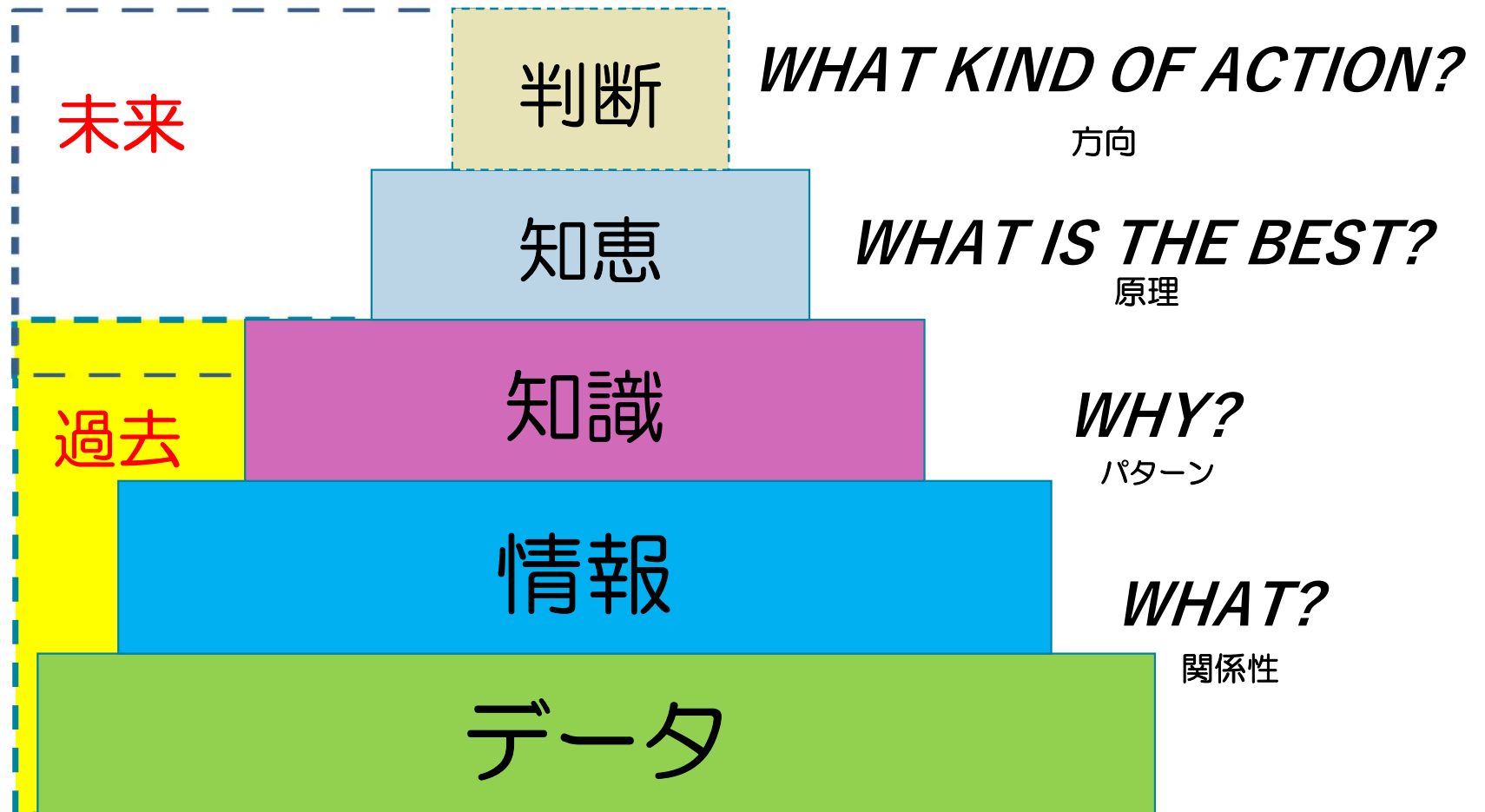


米国BHEF2019冬年会資料から

## 人間にできてAIにできないことをAIに聞いてみた

- ◆ 創造性や感情の表現
- ◆ 直感的な判断
- ◆ 人間関係の構築
- ◆ 倫理的な判断
- ◆ . . . . .
- ◆ AIの技術は日々進化しており、今後も人間にできないことがAIにできるようになる可能性があります

# データプラットフォームを巨視的に見ると



# ソーシャルシステムデザインの理念

## 自らが将来のありうべき社会像を創ること

⇒社会の様々な仕組みを理解した上で、自ら課題を発見、解決策を導き出し、新たな価値の創出を通じて、社会をより良く変容させることのできる人材を育成

## この理念を実現していくためには…

「**先見性**」を持って本質的な課題を発見し、「**戦略性**」をもって 解決策を立案した上で、自らリーダーとしてやり抜く「**実行力**」が求められる。また、このプロセスを進めるには、高い志を持ち学び続ける「**自己研鑽力**」と、多様性を尊重し協働する「**グローバル・コラボレーション力**」が必要となる。

# アドミッション・ポリシー

叡啓大学は、先行き不透明な社会経済情勢の中で、地域社会や世界に貢献する高い志を持ち、解のない課題に果敢にチャレンジし、粘り強く新しい時代を切り開いていく人材の育成を目指します。そのために、次のような資質・能力・意欲を持った学生を広く国内外から受け入れます。

## 求める学生像

- ◆ 国内外の様々な文化、歴史、社会や国際関係に強い関心と探究心があり、他者と積極的にコミュニケーションを行いながら学ぶ意欲がある者
- ◆ 将来を見据え、目的意識を持って学修に取り組み、自らの能力の向上を目指す者
- ◆ 高校までの学習で基本的な学力を身に付け、幅広い視野を持って自ら先頭に立ち、他者を巻き込んで様々な課題に取り組み、社会に貢献しようと考えている者

## カリキュラムの全体構成 (カリキュラム・ポリシーから)

修得	リベラルアーツ科目		SDGsを意識した上で、人・社会・自然に関する幅広い専門分野の知識を学際的に学修 ⇒ウィンドウの設定
	基本ツール科目	ICT・データサイエンス	実社会における課題に対し、統合的な解決策を戦略的に立案するために必要となる基本的なスキルを養う
		思考系	
実践英語			英語で授業を履修できるレベルの実践的な英語力の修得を目標として、1年次の上半期に「英語集中プログラム」を実施する
実践	体験・実践プログラム		企業や国際機関等と提携し、海外を含む複数回のプログラム（留学、インターンシップ、ボランティア活動等）に取り組む
	課題解決演習科目	課題解決演習 (PBL)	企業等の多様な主体と連携し、実践的な課題発見・解決演習に取り組む
		卒業プロジェクト	学生自らが課題を設定し、解決策を立案する卒業プロジェクトに取り組む

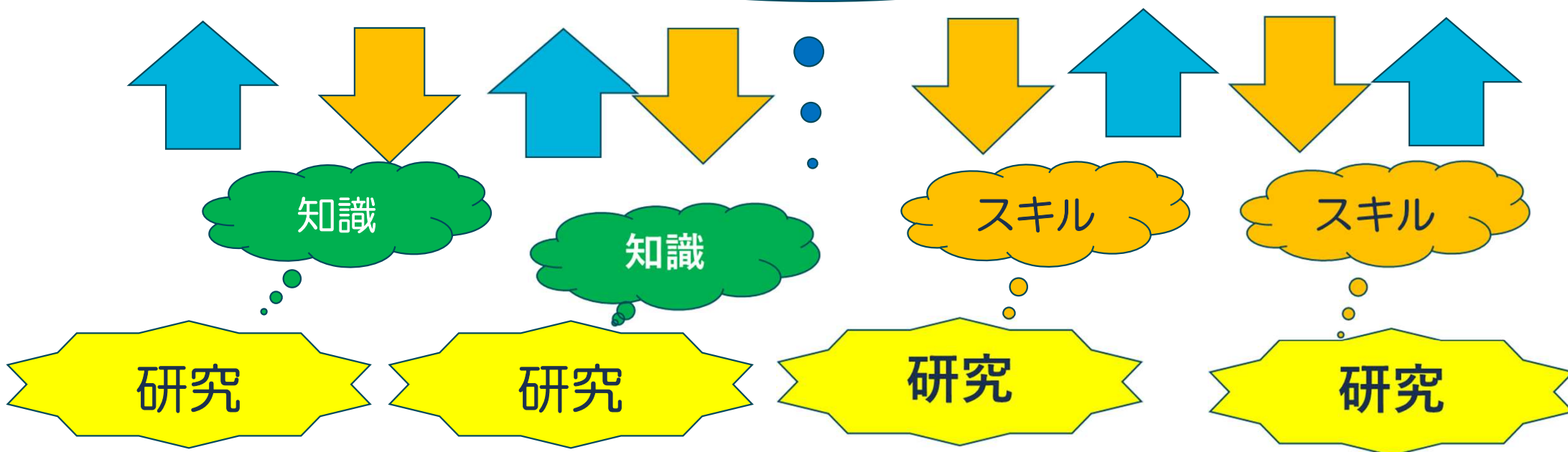
## 卒業認定・学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)

下記コンピテンシー（資質・能力）を身に付けたと認められるものに学位を授与～

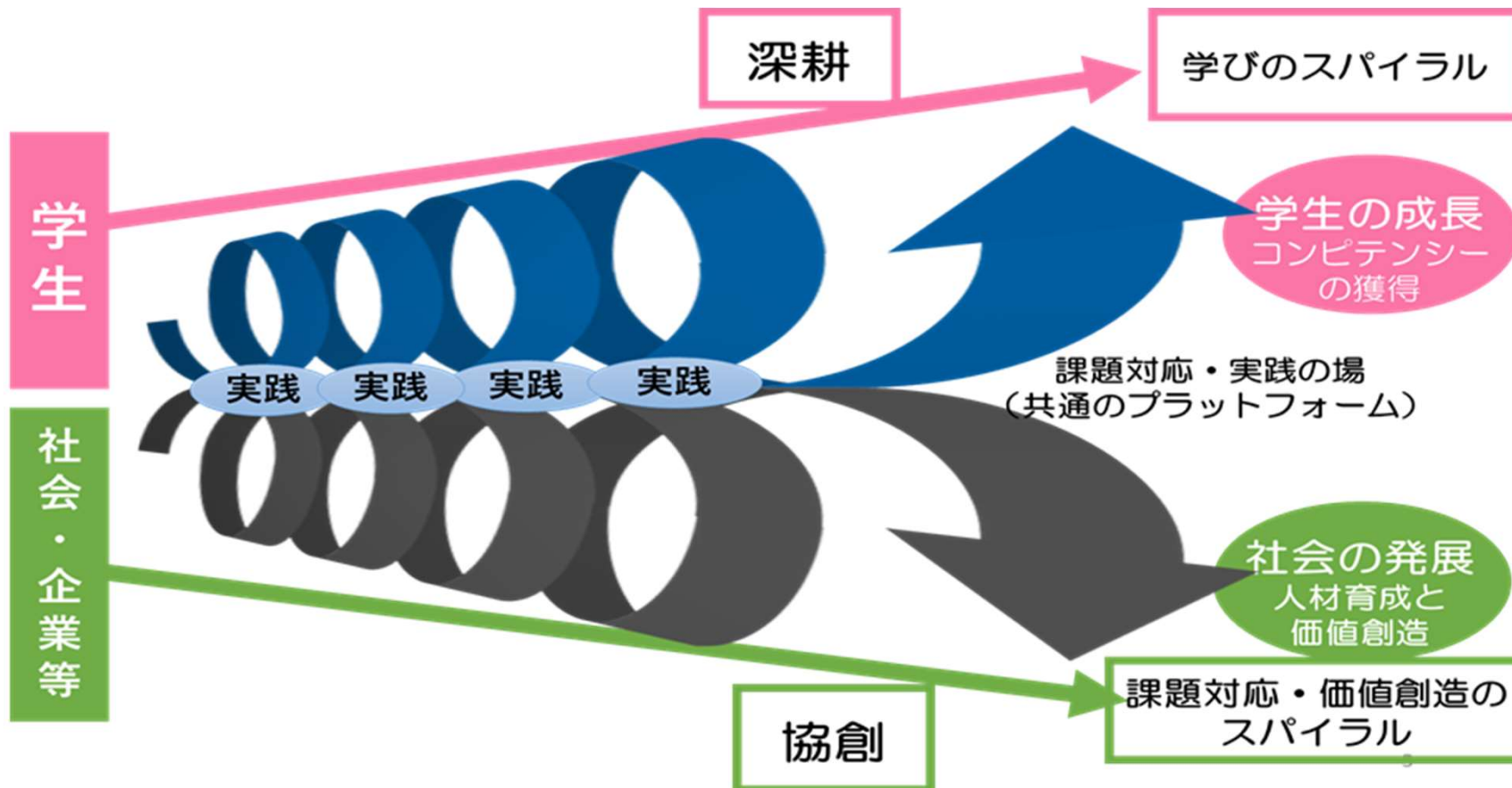
先見性	幅広い教養を基盤とする複眼的・多角的な視野を養い、グローバルな視点から将来を見通し、概念的思考力などを用いて、社会の変化がもたらす本質的な課題を発見する力
戦略性	デジタルリテラシーを基盤に、探究心を持って新しい情報や知識の収集・調査・分析を行い、論理的思考力などを用いて、統合的な解決策を戦略的に立案する力
グローバル・コラボレーション力	個人や社会の多様性を尊重し、外国語能力やコミュニケーション力を駆使して、異なる文化・価値観等を有する他者とも相互に信頼関係を構築し、協働する力
実行力	リーダーシップを持って何事にも主体的・積極的にチャレンジし、困難に直面してもあきらめずに最後までやり抜くことを通じて、物事を実行する力
自己研鑽力	高い志と倫理観を持ち、生涯にわたって学び続ける姿勢を通じて、自己を高める力

# 叡啓大学に置ける研究のイメージ

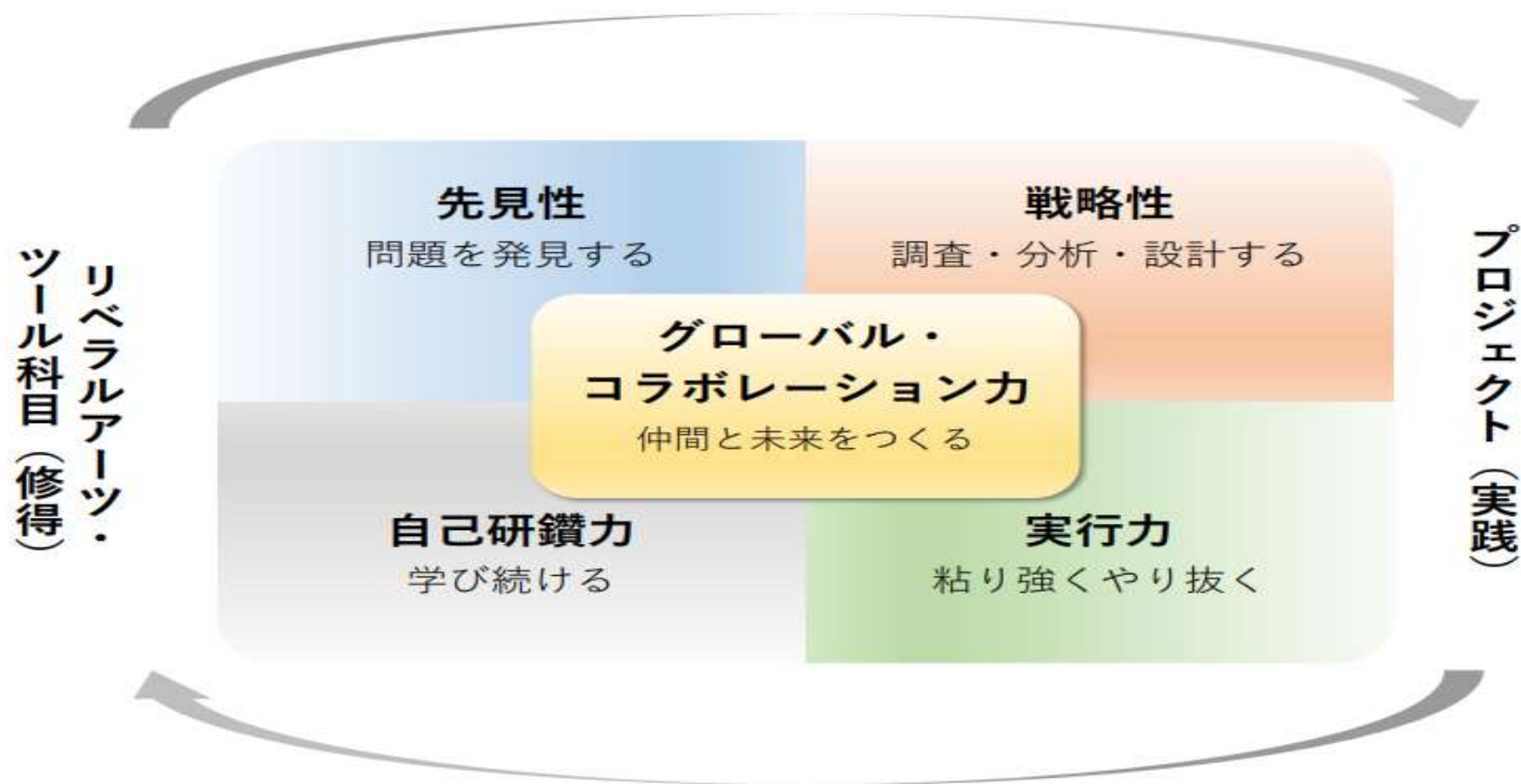
社会課題への対応・社会価値の創出



# 学びの深耕と社会的価値創造のダブルスパイラル



# コンピテンシーの育成



## 目指す姿の実現に向けた6つの方向性（6つの柱）

### 柱1 教育の充実

- I. コンピテンシー育成の強化
- II. SDGs後を見据えたカリキュラムの展開
- III. 教育の質保証
- IV. 教育における外部組織との連携強化

### 柱2 社会の価値創造

- I. 社会価値創造のための基盤整備
- II. 学生起点の企業活用プロジェクトの創出
- III. 企業起点の学生プロジェクトの創出、推進
- IV. 企業起点のプロジェクトの創出
- V. 社会連携スタートアップの創出
- VI. 企業人材の能力開発支援の創出

### 柱3 キャリア開発支援

- I. キャリア教育・支援の強化
- II. 進路サポート体制の強化
- III. 卒業後も学び続けることができる環境の整備

### 柱4 学生獲得の強化

- I. アントレプレナー志向人材の獲得
- II. 本学が求める留学生の獲得
- III. 叡啓大学方式の選抜方法の検証
- IV. 誰もが安心して学生生活を送るための環境整備

### 柱5 マネジメント力の強化

- I. 学生の大学運営参加拡大
- II. 目指す姿実現に向けた戦略機能の強化
- III. 組織文化にマッチした人材の獲得・育成

### 柱6 ブランディングの推進

- I. ブランド・マネジメント
- II. インターナル・ブランディング
- III. エクスターナル・ブランディング

# 主な実施内容に関わるロードマップ

区分	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
3つのポリシー、カリキュラム	3Pの点検・検証	カリキュラムの点検検証	見直し案策定	教員確保等体制整備	新カリキュラムによる開講		
キャリア開発支援	キャリア科目の他大学調査	○教員採用 キャリア科目の詳細検討	キャリア科目開講(試行)	キャリア科目開講(正課)			
定員増(社会人・留学生)、入学者選抜制度	現行制度の点検・検証	制度検討	○文科省届出 入試実施	★入学定員増			
大学IR推進体制の整備(教学マネジメント)	試行 仕組みづくり	○IR推進室設置 教学IRの実践→PDCAサイクルの確立					
企業等との連携プロジェクト	共創・協働PJの試行	共創・協働PJの本格実施 ~効率的で持続可能な仕組みの確立					
	マネタイズ検討	制度設計	研修プログラム/学生起点PJの試行	研修プログラム/学生起点PJの実施	研修プログラム/学生起点PJの本格実施		
			産学官連携の取組における収益化の実施				
外部専門人材の活用によるマネジメント	リクルーティング	○人材確保(ファンドレイザー) 戦略策定	外部資金獲得に向けた取組の強化	検証・見直し	検証・見直し結果に基づく事業の実施		
		○人材確保(広報・マーケティングアドバイザー) 教職員向け研修/ 各種事業でのアドバイジングや戦略策定					
ブランディング	戦略/実行計画策定	インターナル・ブランディング 環境整備検討・研修実施					
		環境整備・研修実施					
		エクスターナル・ブランディング 学生アンバサダー制度					
		メディアリレーション					

# *New Wine into New Wineskins!*



***Thank you for your patience***

